

(松本)

調査の結果、一六世紀後半から一九世紀までの人為的整地層を四層確認した(一〜四検)。遺構には建物跡、土坑、ピット、溝、井戸、竹管などがあり、遺物には木簡の他に、陶磁器

長野・松本城三の丸跡小柳町

まつもとじょうさんのまるあとこやなぎまち

- 1 所在地 長野県松本市大手四丁目
- 2 調査期間 第一次調査 一九九七年(平9)三月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 神田訓安・今村 克・村田昇司
- 5 遺跡の種類 城下町跡(武家屋敷)
- 6 遺跡の年代 一六世紀後半〜一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

松本城三の丸は、本丸、二の丸、三の丸で構成された城郭のうち、重臣・大身の武士の屋敷地である。小柳町は松本城三の丸の南東部、

松本城天守閣の南東約五〇〇m位置する。

(瀬戸・美濃系、肥前系、京焼系)、木製品(漆碗、下駄、曲物)、金属製品(銭貨、煙管など)などがある。建物の基礎構造や屋敷地内の利用状況を理解する上で貴重な資料が得られた。

木簡は四点出土した。このうち(1)(4)は廃棄土坑と考えられる遺構からの出土、(2)(3)は遺構に伴うものではない。

8 木簡の釈文・内容

三検土坑一(一八世紀代)

- (1) ・「○二高廿二□□」(焼印)



227×35×6 011

二検(一九世紀後半)

- (2) 「西郷伝八」

- (3) ・「○大□□」



102×42×5 011

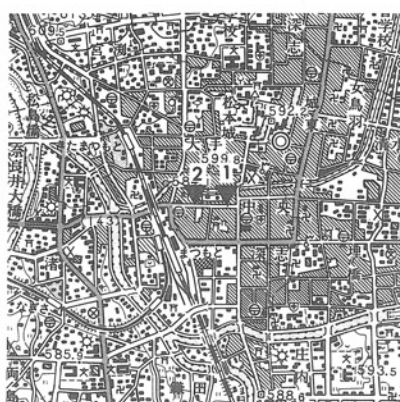
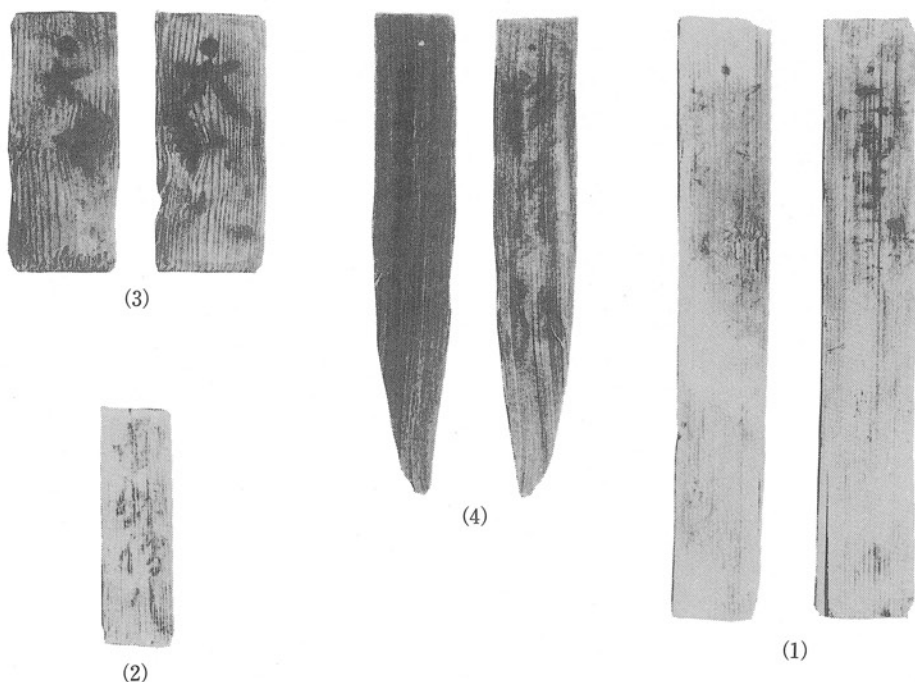
四検土坑(一六世紀後半〜一七世紀)

- (4) ・「○林□□」



193×32×62 051

(1)(4)は荷札木簡か。(2)(3)は用途不明。(2)については嘉永七年(一八五四)の城下町絵図の調査地近隣に「西郷」という家名がみえ、その縁者の可能性がある。(荒木 龍)



(松本)

伊勢町は松本城下町の二三ある町人町のひとつで、飛驒高山、安曇平方面から城下町へ入る西側の玄関口である。松本城天守閣の南約八〇〇mに位置しており、町の規模は東西四七五m、南北六三～八四mで、東西に走る街道の両側に間口二～四間の奥行きが長い短冊形の地割がなされていた。文献による

長野・松本城下町跡伊勢町

- 1 所在地 一・二 長野県松本市中央二丁目
- 2 調査期間 一九九六年(平8) 十一月～一九九七年三月、
二一九九七年二月～三月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 竹内靖長・沢柳秀利・村田昇司・荒木 龍ほか
- 5 遺跡の種類 城下町跡(町屋敷)
- 6 遺跡の年代 一六世紀後半～一九世紀後半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要